

## 平成25年度 林野公共事業の事業評価(期中及び完了後の評価) に係る技術検討会 議事概要

### 1 日時

平成25年7月19日 9:30～12:00

### 2 会場

妙高市妙高高原支所 会議室

### 3 出席者

技術検討会委員 谷本丈夫委員長、梅田修史委員、葛城奈海委員、  
執印康裕委員、淵上勇次郎委員

関東森林管理局 計画保全部長、治山課長、設計指導官、国有林治山係長、  
民有林治山係長、企画調整課監査官、監査係長

### 4 議事概要

#### ○期中の評価 整理番号1 小良ヶ浜地区について

(委員) 東日本大震災による被害は受けなかったのか。

(関東局) 地震による被害はなかったが、津波によって既設の消波ブロックが流されるなどの被害が生じている。事業再開の際には復旧が必要と考えている。

(委員) 事業を3年間休止し、その分を延長した事業期間が33年間となっているが、被害にあった既存施設の復旧もあるとのことなので、事業期間をもう少し長くする必要はないのか。

(関東局) 被災した施設の復旧も必要であるが、現在の所なるべく計画期間内に事業を完了する方向で考えている。しかしながら、原発事故に伴う休止期間が長くなる状況となれば、全体計画の見直しを行い、改めて期中の評価を行いたいと考えている。

#### ○期中の評価 整理番号2 妙高山地区について

(委員) 事業名が「地域防災対策総合治山」とあるが、これまではハード対策が主であったが、保全対象である地元地域とも連携しソフト面も併せた対策を実施しているということか。

(関東局) そうである。直下に保全対象があり、火山性崩壊が発生する状況から溪間工をメインに下流への土砂流出を抑える対策を行うとともに、土石流センサーを設置するなど、ハード、ソフト対策を併せて事業を実施している。

(委員) 下流には砂防ダムがあるとのことであるが、受け止める土砂量のバランスなど、関係機関とは連携しているのか。

(関東局) 毎年国土交通省、新潟県等と連絡調整会議を開催し、事業内容の情報共有、調整を行っている。

#### ○期中の評価 整理番号3 大井川地区について

(委員) 評価個表において、昭和22年から40年までの被害について記載があるが、その後の新たな崩壊とは、最近起こったものなのか。

(関東局) 昭和40年以降も人的被害はないものの、まとまった雨が降る度に崩壊が起こっている状況である。

(委員) 昨今は異常な集中豪雨も頻発しており、予期せぬ雨量で災害の発生が懸念されるので、可能な範囲で近年の被災状況についても記載した方が、事業の必要性や緊急性が伝わるのではと考える。

(関東局) 検討する。

#### ○期中の評価全般について

(委員) 期中の評価個表の「事業の進捗状況」として、事業進捗率が記載されているが、これが順調なのか遅れているのかが判断できない。進捗の目安というか、全体計画の中である時点では何パーセント実施するというような目標はあるのか。

(関東局) 全体計画のなかで事業を計画しており、概ね計画どおり進捗している。実際には年度毎の予算によって、多少の増減があるが調整しながら、事業を実施していく。

#### ○完了後の評価 整理番号1 表山地区について

(委員) 評価個表の「今後の課題等」に地すべりの再活動の兆候を継続観察する必要があると記載されているが、具体的にはどのような対応をとっているのか。

(関東局) 事業の実施により、現在は地すべりが止まっている状況のため、センサー等による計測は行っていないが、定期的な目視による確認を行っている。今後クラックの発生などの兆候があれば、対応していく。

(委員) 定期的な観察は重要と考える。

#### ○評価対象案件について

(委員) 今回評価対象となっている期中の評価5件、完了後の評価2件について、提示された評価案で妥当と考える。今後の事業実施にあたっては、本日出された意見等に留意の上、事業の効果を最大限に発揮できるよう努められたい。